

第2回 碧南市子ども・子育て会議 会議録

日時

平成26年2月25日(火) 午後14時15分～午後15時30分

場所

碧南市社会福祉協議会1F 会議室

出席者及び欠席者

(1) 出席者

中根潮美、杉浦紀政、水野裕子、板倉尚子、水野博史、金子てる子、鈴木ナツキ、
沖田恵、大河内裕子、石川陽子、杉浦幹夫、菅原優、早川登実幸、野々村尚道、加
藤三保子、栗並えみ、藤井理沙、大岩みちの(委員兼アドバイザー)

(2) 欠席者

山田淳二、山下尚勝

(3) 事務局職員

福祉子ども部長 鈴木重幸、子ども課長 鳥居典光、子ども課指導保育士 鈴木
正枝、子ども課指導主事 古市幹子、子ども課幼保係長 杉浦英樹、子ども課育
成支援係長 石井香代、子ども課育成支援係 担当係長 亀島有香

傍聴者

3人

議題

1. あいさつ

2. 子育てに関するアンケート調査結果について

3. その他

4. 議事

(1) 子育てに関するアンケート調査結果について

事務局より、「碧南市子育てに関するアンケート調査結果報告書(2月17日時点案)」
の資料に基づき説明を行った。その後、審議した結果、了承された。

<主な意見・質疑>

【A委員】

40ページについて、学区内に幼稚園がない層が保育園に回答している割合が高いのではないか。

【事務局】

幼稚園がある地域は、幼稚園がない地域に比べて認可保育園と回答した割合が若干上がっているため、その影響はあるように思われる。

【B委員】

45ページに関連する放課後の利用状況について、定員と利用の状況を知りたい。

【事務局】

現在、放課後児童の待機は少ないが、年度初めには待機がでる小学校（新川・中央）がある。一方、定員割れとなっている小学校もある。

【C委員】

58ページの認知度について、病後児保育の認知度が半数に満たないのをどのようにお考えか。また、利用状況はどうなっているか。

【事務局】

昨年50数件の利用があったが、今年度は延べ8人程度となっている。利用のされ方は、同じ人が何度も利用している状況。医師の診断を受けて初めて利用できるため、ハードルが高いと思われるのではないかと。1日の上限は2名である。

【D委員】

障がいのある子どもの、児童クラブの受け入れが難しいと聞いたことがある。そのような子の支援・行き場がどこにあるのか。また、それらの告知や周知などはどのようなになっているのか。学校の先生や保育士からのアプローチもできると良いと思われる。

ファミサポの利用についても、障がいのある子を受け入れる体制はあるのか。

【事務局】

碧南では、障害児童デイが新たにできた。このような情報を、障がいをもった子の親に周知できるよう努めていかねばならないと考えている。障がいをもった子と一般の子が一緒に遊べる場所の提供も図る予定である。

ファミサポは会員同士での助け合いをするシステムであり、講習を受けてもらうなどを行っているが、一般のボランティアに近い立ち位置である。障がいをもった子どもへの対応方法や講習会は実施できておらず、受け入れる会員にとってもハードルが高いと

考えられる。このため、すべての会員の方をお願いするのは難しい状況である。

児童クラブでも、障がいの軽い子どもを受け入れることができるが、管理者を増やす必要があり、全ての児童クラブでの受け入れ体制は整っていない。

【講評】

アンケート調査結果では、企業への職場環境改善を働きかけてほしいと回答された方が30%となっている。企業が子育て支援についてどのように考えられているか把握することも必要なのではないかと考えられる。

調査に回答されない方のニーズも考察していく必要がある。子育て支援法には、あらゆる主体が協働で子育て支援について関わっていくことが必要だと記載されている。パーセンテージは低くとも、すべての子どもを対象にして、子育て支援施策を検討していくべきである。先般名古屋で起こった事件では、家族が離れてどうしようもなくなった背景があるように思う。子育て支援といいながらも、子どもから大人まで、全員が成長していけるような施策・まちづくりを行っていく必要がある。

以上